

過去は右、未來は左と心得えて時間の動きを表現するもの。

時時 「時間の流れを」表わす手まねをし  
て（即ち掌を下に向け指頭を前方にさした右手人差指を右から左へ線を描いて行く）その途中人差指の指頭をくるっと上にさし（その掌は内側を向く）またその指をもとに戻して左へ移行してはまた指頭を上になさして、これを二三度繰り返して行く。

解く 研究―考える―解る。

徳 人々―幸せ―与える―いろいろ―よい行い。

得する 「儲ける」と同じ手まね。

毒 五指を集め合わせたその指頭を鼻さきにもって行く。

匂いをかぐ。

得意 (1) 得意顔。「自慢」の手まね。(2)

〇〇が得意「上手」の手まね。

読書 本―見る。「本」を表わした両手

のうち左手をそのままその位置に残して置いて、掌を下向け指頭を前方にさした人差指と中指の右手を眼もとにつけて（これを視線として）二指の指頭を左手に向け、指頭を上下に動かす。視線が上から下へ、下から下へと本の文章の行を追うこと。

独身 結婚―まだ―独り。

特別 特に 掌を下に向け五指の指頭を集め合わせた右手を掌を下に向けた左手の手首の上辺りから腕にかけて人形を描く。明治時代の兵隊の特務曹長の袖につけた章しるしから来たもの

独立 (1) 親から独立。自分（独り）―食う―生活。(2) 独立国家。自身（独り）―政治―国。

時計 右手の親指と人差指、その親指の方を左手に握らせて（左手の親指と人差指の間

に右手の親指をさし入れた状態）時計のネジ



を巻くように握られた親指を軸にして、人差指を廻転させる。右手人差指を時計の針としたものか、或はまた

時計のぜんまいを巻くことか。

何処 右手の指頭を上にした人差指を左右に振りながら、その手を右へ移行させる。

所 五指を彎曲させた手の掌を下向けてぐらりと小さい輪を描いて、その輪の中心と思われる位置に手を止め僅かに下へ押し降す。

登山 掌を下向けて五指の指頭を右にさした左手で右から左へ「山」の形を描いて、その腕を立てたままにとどめ、その腕から手の上へ、右手人差指と中指で歩いて登って行く

年 年を表わすには、左手の親指と人差指で輪をつくり（他の三指は伸ばしたまま指頭は前方直角）右の人差指でその輪を一つぼんとたたいて、輪の上をぐるりと一周させてそれに数の一を出すと一年となる。

この年の手まねのなりたち（語源）はつまりらかでないが、樹木の年輪を表現したものと見えよ。

三年ならば、年一三。

平号で年を表わすには、明治十年ならば「明」の文字を人差指で空間に書き、「十」の数を表わす。

大正ならば「大」。昭和なら「昭」と。（もし、明治の場合、明治天皇の特長のある鬚を模写手まねして、年の数を表わしたものであるが）「大正」「昭和」も地方によって約束された記号手まねがある。

今は主として、西暦で年を表わしている